

科目名 (Eng)		ビジネス創造演習 (Exercises in Business Creation)							
担当教員		松本 行真							
対象学年等		専攻・学年		授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目
		ビジネスコミュニケーション学専攻	1	後期	必修	2	(90)	専門	C
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-4), (C-3), (C-6)								
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：2). 3).								
	JABEE基準1(1)との対応：(d)-(1), (d)-(4)								
授業の概要と方針		前期に履修した「モノづくり概論」で学んだC A D等により、具体的な「モノ」をデザインする。この授業は新事業開発 に連動し、市場に受容される「モノ」づくりを目指す。							
到達目標		与えられた課題に対して、デザインに立脚した解決策が提案できる。 何らかのコンセプトに基づいたデザイン立案ができる。 、 をチームにておこなうことができる。							
授業計画									
	週	授業項目		理解すべき内容			事前学習		
後期	16	イントロダクション		エンジニアリングデザインとは					
	17	デザインコンセプト探索 (1)		課題探索、情報収集の方法			前回の復習と課題作成 (以下同)		
	18	デザインコンセプト探索 (2)							
	19	デザインコンセプト探索 (3)							
	20	デザインコンセプト発表							
	21	コンセプト案作成 (1)		C A D等を用いてコンセプトを具現化する					
	22	コンセプト案作成 (2)							
	23	コンセプト案作成 (3)							
	24	コンセプト案作成 (4)							
	25	コンセプト案作成 (5)							
	26	中間発表会		市場受容性との関係					
	27	コンセプト案作成 (6)							
	28	コンセプト案作成 (7)							
	29	コンセプト案作成 (8)							
30	最終発表会								
試験について		実施しない							
評価方法		制作物、発表内容とチーム貢献度、レポートにより総合的に評価する。							
教科書		『製品・新事業開発の創造的マーケティング 開発情報探索のマネジメント』、石川編、生産性出版							
参考書		『マーケティング・サイエンス入門』、古川・守口・阿部、有斐閣アルマ 『新事業開発の論理と実際』、竹山元一、日本マーケティング研究所							
関連科目		モノづくり概論、新事業開発 、新事業開発							
履修上の注意		C A Dの操作方法については事前に復習しておくこと。また、新事業開発 との連携にて行うため、両授業のグループワークに積極的に関与すること。							